

深川東京

fukagawa tokyo modankan news

モダン館だより

主催 企画展

伊東さんの燐票

ふたたび

11月1日(火)～13日(日)

※11月7日(月)は休館日です

江東区が寄贈を受けたマッチラベル(燐票)コレクションのなかから、「飲食」に焦点をあてて大正末年から昭和期までのものを展示いたします。

※無料



※当館の催し物のご予約は 10時から お電話 03-5639-1776 まで

11月のカレンダー 催し物の詳細は2面をご覧ください

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6 
	「伊東さんの燐票、ふたたび」展(～11/13)					
7 休館日	8	9	10	11	12	13
	「伊東さんの燐票、ふたたび」展(～11/13)					
14 休館日	15	16	17 	18	19	20 
21 休館日	22 	23	24	25 おきがる講座	26 おきがる講座	27 圓橘の会
28 休館日	29 嘶+話	30				

開館時間 10:00-18:00 (金・土曜日は19:00まで)

11月の催し

共催

圓橘の会

11月27日(日)15:00～ (開場14:30)

三遊亭圓橘・萬丸

廓噺「文違い」 “理由があるから嫉妬するのではなく、嫉妬深いから嫉妬する” シェイクスピア『オセロ』

圓橘作「旗本の娘・おきよ」

“バラと呼んでいる花を別の名前にしてみても、美しい香りはそのまま”
シェイクスピア『ロミオとジュリエット』

予約 2,500円 当日 2,800円 定員 50名 ※11月15日(火) 10時から受付開始



共催

噺 + 話

おきがる講座と落語会モダン亭のコラボ

11月29日(火)14:00～ (開場13:30)



三遊亭歌扇「二番煎じ」

+ 龍澤潤「演題にちなんだ話」

予約・当日 1,500円 定員 20名
※11月15日(火) 10時から受付開始



主催

おきがる講座

11月25日(金)・26日(土) 13:00～14:30
渋沢栄一ゆかりの事業4「製糖業」

11月25日(金)・26日(土) 15:00～16:30
渋沢栄一ゆかりの人々9「古河市兵衛」



受講料 500円 定員 各回20名(要予約)
講師 龍澤潤(深川東京モダン館)

※11月8日(火) 10時から電話で受付予約

※7月29日・30日中止分です。当初の7月にお申込みいただいた方もお手数ですが改めてご予約をお願いいたします。

※当館の催し物のご予約は 10時から お電話 03-5639-1776 まで

●お客様へのお願い

- ・次に該当するお客様のご来場は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。
37.5度以上の発熱があるお客様 咳、喉の痛み等の症状があるお客様
過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴があるお客様
- ・マスクを着用でないお客様のご入場はご遠慮いただきます。咳エチケットにご協力をお願いいたします。
- ・手洗いと手指消毒にご協力をお願いいたします。
- ・催し物にご参加されるお客様には、氏名・連絡先等を確認させていただく場合がございます。

小名木川と行徳塩



天正 18 年（1590）年、家康が江戸に入府すると、下総国行徳（現市川市行徳）の地が塩の生産地であることを知った家康は直轄領とし、川の整備と塩田開発手当金を出して開発をしました。

現在の小名木川辺りが当時海岸線だったので、開削というより海側に杭を打ち埋め立てた工事をしてさらに中川から江戸川まで新川を開削したので、江戸川・新川・小名木川を経て塩を江戸へ運ぶ「塩の道」が完成し、翌年から船で塩を運ばせます。

何故、家康が塩を大事にしたのか？ 塩は大切な軍需物資で、兵糧の確保は戦の勝敗を左右するほど大切なものでした。また、武田信玄は今川氏・後北条氏から塩留をされ領民が困りはてたという「敵に塩を送る」のエピソードにもあるように、家康にとっても「塩の儀は御軍用第一の事、御領地一番の宝」、塩の確保は極めて重要でした。

永禄 7 年（1564）当時、関東一円は後北条氏の領域だったので、行徳から塩年貢を徴収していました。では家康の行った塩年貢の徴収はどうだったのでしょうか。天正 19 年（1591）本行徳の百姓らが、江戸城本丸へ冥加年貢として毎日 1 石（10 斗、塩俵だと 2 俵）を納入していました。年貢は毎日欠かさず納入するのだから、船頭は往来する船の監視役として番船と呼ばれていました。

塩田開発のため、家康、秀忠、家光は多額の資金を投入し手厚い保護を行い、行徳塩業の発展に力を入れ、家康は鷹狩りと称して塩浜開発の視察を度々行いました。当初、行徳の塩は江戸の人々にとって欠かせないものでしたが、人口が増えてくると地塩では賄いきれなくなり、寛永の頃（1624～1644）には十州塩（瀬戸内海でとれた大量生産の塩）が江戸で売られました。そこで

行徳ではできた塩をすぐ出荷せず、塩を穴倉に入れて置くと苦汁が^{にがり}溶け出し「古積塩」として長期保存が出来たので、内陸部や東北、信濃などに販路を広げていきます。

家綱以降保護政策は緩みましたが、吉宗は再び行徳塩田の保護に力を入れたこともあり明治維新まで幕府の保護は続けられ、行徳から毎日 1 石の塩を江戸城へ運び続けました。

明治時代になると、安価な台湾産の塩が入り、塩の専売制度が導入されると行徳塩田は整理の対象になり、昭和初期には製塩事業は無くなりました。

今、川に面した街道沿いには成田詣でで賑わったであろう古い家と常夜灯があり、塩田は浦安市川バイパスとなり、かつての面影はありません。



（文と写真 江東区文化観光ガイド 岩渕和恵）

深川東京モダン館では江東区文化観光ガイドによる館内のご案内（10時～16時）およびご希望によりモダン館周辺のまちあるきツアー（1時間程度、11時・14時出発）を行っています。※新型コロナウイルス感染状況によって中止になる場合があります。※諸事情によりガイド不在の場合もあります。

貸会議室・多目的スペース

深川東京モダン館では2階の多目的スペースと会議室をお貸し出ししています。ミーティングやイベントを行うスペースなどにご利用ください。

◆会議室 (20㎡)

利用日時：開館日時 利用例：社内ミーティング、商談、お花・書道・語学の教室等

◆多目的スペース (80㎡)

利用日時：開館日時 利用例：展示、イベント、社内研修、演劇の公演、講演会、教室等



多目的スペース



会議室

※料金、ご予約（ご利用日の半年前から受付）詳細については、お電話またはメールにてお問い合わせ下さい。

※スクリーン、プロジェクター、マイクなど機器類もご利用いただけますので、ご相談ください。

ガイドブック・お土産品

深川東京モダン館1階では、まちあるきに役立つガイドブックや江東区の文化財ガイドなどを販売しています。

- ・『江東区の文化財』各地域
- ・江東区観光キャラクター
コトミちゃんグッズ各種
(タオルハンカチ ステンレスボトル等)
- ・江東区の名所を描いた絵はがき
(水彩・切絵・写真)
- ・もくレース
- ・深川めしの素
- ・ちくま味噌 甘酒
- ・はちみつ
- ・ゲイシャコーヒー
- ・Tシャツ 等

仙台筆筒
キーホルダー
3,000円(税込)
熊野洞

秋保から門前仲町へ！
仙台筆筒の金具を使いました



百圓珈琲

1F カウンターでは 100 円のコーヒーをご提供しております。
ホットコーヒー「小樽」「ベイキャメル」「モダン館ブレンド」(しつかり・すっきり)の3種類をご用意しております。
まちあるきの休憩時や会社のお昼休み中の一服にどうぞ。



開館日および開館時間

10:00-18:00 (金・土曜日は19:00まで)

休館日：月曜日

(月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館となります)



「深川東京モダン館だより」第115号(2022年10月21日)

発行 (一社)江東区観光協会 深川東京モダン館

〒135-0048 東京都江東区門前仲町1-19-15

TEL 03-5639-1776 FAX 03-5620-1632

Mail info@fukagawatokyo.com

ホームページ www.fukagawatokyo.com

